



No.3063

**第3381回例会**

平成26年 2月12日

**DISTRICT 2500****OBIHIRO****ROTARY CLUB**方針 **One for All, All for One**

一人はみんなのために、みんなは一人のために 会長 渡辺喜代美

2013-14年度国際ロータリーのテーマ **ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を****国際ロータリー世界理解月間****帯広5ロータリークラブ・芽室ロータリークラブ・音更ロータリークラブ合同例会**

帯 広RC 第3381回例会 帯広北RC 第2707回例会  
 帯広南RC 第1047回例会 芽 室RC 第2558回例会

帯広西RC 第2031回例会 帯広東RC 第1415回例会  
 音 更RC 第 964回例会

**■プログラム**

(帯広RC 小澤国際奉仕担当理事)

**◎講演**

大和教育研究所 所長 小田島裕一 様

**◇演題** 国境を越えた人間作りから見える国際理解

～世界が賞賛する「日本人という生き方」～

私は、札幌の中学校で英語の教師をしておりましたが、2006年から2年間の間、アフリカの赤道直下のウガンダ共和国に海外青年協力隊の一員として赴任し、野球を通じた人間教育を現地の高校生に対して行ってまいりました。

現地に赴任してから、色々な苦労を重ねながら、選手達は1年半厳しい練習を行い、日本で野球をしたいとの望みが叶い、なんと札幌ドームで試合を行う事になり来日致しました。相手は、日本ハムファイターズの野球教室で学ぶ中学生選抜チームで、試合は互いの投手の投げ合いで接戦でした。途中エラーなどがありましたが、皆でカバーして0対0の引き分けで無事に終わりました。もう、6年前になりますが、まさか私がプレーした事のない札幌ドームで、私の教え子が、色の黒い教え子がプレーするとは夢にも思いませんでした。この子達を呼ぶにあたり6ヶ月間で1,000万円もの寄付を頂き、夢を実現することが出来ました。本当に関係者の皆様に感謝の気持ちで一杯です。

実際まだまだ練習不足の状態、日本に来ていきなり札幌ドームですから、生徒達も舞い上がっていました。相手の中学3年生のピッチャーの球がスピードガンで135kmも出ており、球が速くて見えないと訴え、怪我したら大変だ、これから色々な行事に差し支えるのではと、弱気な発言で大変でした。私も何かあったら困るので、無理するな、危なかったら逃げて行けと指示を出しました。こちらのピッチャーは、ベナンという背の高い選手ですが、普段からコントロールが悪く、殆どストライクが入らないのですが、奇跡的に4回参考記録ながらヒットを1本も打たれずに、ノーヒットノーランを記録しました。試合後、インタビューを受けておりましたが、日本に来る際に取り敢えず覚えさせた“ありがとうございます”と受け答えの後に、決め球は何か？と聞かれ、“田中スライダーです”と答えていました！そんな球は教えていません！実は、日本に来る前に札幌ドームの写真を飾らせたり、恐らくアフリカの高校生で札幌ドームのマウンドに立てるのはお前だけだとか気持ちを高めさせておりました。また、彼に日本の高校野球、甲子園の決勝のDVDをみせておまして、そこを目標に練習していました。そのDVDが、駒大苫小牧(田中将弘)対早稲田実業(斎藤祐樹)の2006年夏の甲子園大会決勝戦のDVDで、彼のあのピッチャーが田中投手だったようで、DVDで観た田中投手のスライダーを見よう見まねで投げたそうで、つい田中の名前を出したとのことで、後で注意しておきました。

試合終了後、ミーティングで選手達が、なんでこんなに上手くなったのか？色々考えるが、1回や2回だったら、勢いで勝てるが、常勝するためには野球の神様の助けが必要で、今回は野球の神様に助けられたのではないかと？我々が指導してきたことも良かったのではないかと思いました。日本人には当たり前でも、海外に行ったら通用しない、通じない事が多々ある事を感じました。

ウガンダへは、日本から23時間もおかかって現地に赴任する訳ですが、赴任した当時、今もそうですが、大人達が時間を守らないのが普通で、約束もとてもルーズで、挨拶しない、掃除しないのが当たり前でした。赴任して、野球の部員は何人か？と尋ねると当初は30名ぐらいかな？との回答でしたが、最初の練習には55名の

生徒が集まりました。単に日本人見たさに集まっただけのようでした。ウガンダの習慣でしょうか、野球の練習をするにしても練習開始時間に遅れてくるのが当たり前で、10分、30分、1時間と遅れて集まります。しかし、練習時間は、1時間でしたので練習していない生徒が結構いました。学校で掃除の習慣ありませんでしたし、挨拶も出来ませんでした。そんな中、ルガンダ先生という私と共に野球を指導した体育の先生に出会いました。彼は、赴任している間中、色々と問題を起こしてくれましたが、私が赴任した時に、学校の先生が率先して最低限時間を守る、約束を守る事が必要ではないかと彼に話した所、“僕ら教育に足りないのはそう云う事だ”と多に共感して頂き、拍手を求められ、ハグされました。野球の指導を通じて礼儀を守り、時間を守り、挨拶、掃除をするような日本式のやり方でウガンダの教育を変えて行こうと大変盛り上がりました。しかし、次の日の野球の練習には、彼は来ませんでした！後で理由を聞くと、親戚がなくなったので来れなかった、と言いつね繰り返していましたが、その後も何かに付けて来ない事が多く、数多くの親戚があり30人以上の方が亡くなっていたようでした。ある時、母親が亡くなったとのことでしたので、ある程度お金を渡してあげたりしておりました。私、現地で毎日、日記を付けておりましたので、かなりの回数の御不幸があるなと思いました。平均寿命も短い国だしと思いましたが、母親は何と4回亡くなっておりました。アフリカでは一夫多妻なのかと思いましたが、その後、母親は何人いるのか？と尋ねたところ、母親と妻の2人で存命との事でした。亡くなった4人は、誰だったのでしょうか？

しかし、野球を通じ生徒達に日本では常識の時間を守ることや、ルールを守ること、道具を大切にすること、挨拶をすることなどを指導すると生徒達は大きく変わって行きました。最初は何故出来ないのか？と思いましたが、現地ではやらないのが当たり前で、どの様にしたら良いか彼らは何も分からない状態でしたが、未知の日本式の教育を2年間で受けることによって、野球部の生徒が率先して学校の掃除をしたり、道具を大切に扱ったり、挨拶をしたり、日本では当たり前の事が出来るようになりました。

6年前の出来事です。赴任している間にも色々忠告、意見を頂きました。あまりやり過ぎるな、バランスが、継続性が、他の隊員との繋がりなど云われました。しかし、現在までに私が野球を教えた教え子たちが、学校で野球の指導をしたり、リトルリーグの監督をしたりして後身の指導に活躍しています。そのようなウガンダの野球への取り組みが、先日エチオピア航空の機内誌に特集として5ページに渡り掲載されました。ウガンダのチームがヨーロッパの大会で勝って、初めてアメリカの大会に出場して、初めて1勝を上げたとの記事です。

私の後に海外青年協力隊で3名の方がウガンダに赴任しておりますが、その後も野球での活動を続けており、3年かけて国際試合が出来る野球場の整備が日本大使館の御協力を受け行われ、今年の1月に球場が完成したそうです。自分のやるべき事をしっかり行くと、引き続いて活動が継続される事を実感しております。一見、今すぐには効果がない事かも知れませんが、5年10年続ける事によって道が開け、後に続く人間も出てきて、花が開く事もあるのではないかと思います。本日は私のウガンダでの野球を通じた拙い話でありましたが、素晴らしい機会をお与え頂き誠にありがとうございました。



## 講師紹介

1968年札幌生まれ。元中学教師。

2006年6月に、JICA青年海外協力隊員として、アフリカのウガンダ共和国に赴く。ウガンダ野球協会に所属し、現地での野球の指導、普及に努めた。「野球を通じた人間教育」を掲げ、高校野球部の指導にあたるとともに、ウガンダナショナルチームの監督も務め、北京五輪予選にも参加した。わずか6ヶ月の間に、日本人の躰を習慣化し、人間的成長を遂げたウガンダ野球選手たち。自らの夢を誇らしげに語るウガンダ野球選手達から、私たち日本人が学ぼうという趣旨で2008年1月に13名のウガンダ野球選手を招聘し、ウガンダ国際交流が行われた。日本の根幹をなす「教育」の再興のために、「日本人という生き方」に焦点を当て、北海道を中心として、全国各地で講演活動をしている。



## ■会長報告

帯広RC 渡辺喜代美 会長



今日は、7ロータリークラブ合同例会に多数ご出席いただきありがとうございます。ホストクラブの帯広RC会長渡辺喜代美でございます。『世界理解月間』の例会が皆さまにとって実りあるものにしようと担当の世界社会奉仕委員会・小林委員長、小澤理事とともに準備をさせていただきました。色々いたらぬ点もあるかと思いますが、どうぞRCの友情にてお許しいただければ幸いです。ホストさせていただきます事、大変光栄に思っています。高いところからではございますが申し上げます。

さて、私達日本人ロータリアンが世界を理解するうえで忘れることができない人物として、三人の国際ロータリー会長のお名前を挙げたいと思います。東ヶ崎 潔氏、向笠 廣次氏、そして、昨年まで活躍された田中作治氏。

東ヶ崎潔氏は、1968-69年度RI会長で、東京ロータリークラブの会員。[PARTICIPATE! (参加し敢行しよう!)]というテーマを掲げています。このテーマは、英語で言えば、1語、歴代で最も短いテーマでした。1895年9月24日アメリカ生まれ。豊かな英

語力と米国とのコネクションを見込まれ、世界教育者会議日本事務局長、1939年のニューヨーク万国博覧会コミッショナーなどを務め、日本における国際理解の増進に貢献しました。太平洋戦争中は、ジャパ・タイムズの編集局長として働き、日米両国の豊富な知識をもって、日米の誤解の溝を防ぐよう努められ、後にジャパ・タイムズ社長に就任。当時の水曜会、戦後、東京ロータリークラブ復活メンバーとしてその名を連ね、1956年東京クラブ会長、以後国際大会などで講演をされるなど素晴らしいスピーチで世界のロータリアンにロータリーの心を伝えていらっしゃいます。

向笠廣次氏は、大分県中津RC会員で、1982-83年度にRI会長を務めました。彼のテーマは、「Mankind is one, build bridges of friendship throughout the world. (人類はひとつ、世界中に友情の橋をかけよう)」。

国際協議会のスピーチでは、「世界中の人々はみんな同じ土なのです」という言葉を何度も使われたそうです。向笠氏は、1911年11月9日生まれの子供科医で、国際的にも名を知られた精神科のドクターだったそうです。彼は、人類は国籍、肌の色、言語、宗教などによる区別はなく、あるのは頭脳の機能による幾つかの性格の分類だけであるといっています。第二次世界大戦直前、世界各国で行われた精神医学の調査によると、各国における人間の気質、あるいは性格の分類は、その国の人口に対する比率がほとんど同一であることが報告されたそうです。向笠氏もその調査に参加し、日本の場合の比率も他国と一致していることを発見されています。さらに向笠氏は、自分の家族のルーツを考えていたとき、お孫さんから「おじいさん、僕のおじいさん、おばあさんは何人いるの?」と聞かれ、計算した結果、10代前までさかのぼると、1,024人となり、20代前には100万人、30代前には10億人という天文学的数字になることを知ったそうです。そこで向笠氏はこの答から得た結果、「人類は疑いもなくひとつの大きな家族であるということであった。」とおっしゃっています。

田中作次氏につきましては、皆さんご存知でとおもいますが、この場での紹介はひかえさせていただきますが、三人のRI会長の姿から私は、「ロータリアンとはいつの時代もそれぞれの立場で世界を体感し、行動する奉仕団体の一員である」という事を強く感じました。

今日は、講師に大和教育研究所・所長の小田島裕一さまをお迎えして、「国境を越えた人間作りから見える国際理解～世界が賞賛する「日本人という生き方」～」と題してお話いただきます。限られた時間ではありますが、皆様と一緒に世界理解を深めていきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

## ■会務報告

帯広RC 小田 剛 幹事

- ①・帯広西RC、2月13日(木)の例会は、2月12日の繰上げ例会と致します。
- ・帯広北RC、2月14日(金)の例会は、2月12日の繰上げ例会と致します。
- ・帯広南RC、2月17日(月)の例会は、2月12日の繰上げ例会と致します。
- ・帯広東RC、2月18日(火)の例会は、2月12日の繰上げ例会と致します。
- ②帯広西RC、創立記念夜間例会開催のご案内  
日 時 2月20日(木)午後6時30分  
場 所 北海道ホテル
- ③帯広北RC、創立記念夜間例会開催のご案内  
日 時 2月21日(金)午後6時30分  
場 所 ホテル日航ノースランド帯広

## ■次回例会

- 2月19日「帯広RC体験会」 (会員増強委員会)  
～あなたも1日ロータリアンになりませんか～
- 2月26日「米山記念奨学生卓話」 (米山記念奨学生委員会)  
RI第2500地区 米山記念奨学生 齊 佳鶴 玲 様



例会日 / 水曜日 12:30 ~ 13:30

例会会場 / ホテル日航ノースランド帯広 TEL0155-24-1234

●創立 / 昭和 10 年 3 月 15 日

●認証番号 / 3820 ●戦後再開 / 昭和 25 年 12 月 19 日

●事務局 / 帯広市西 3 条南 9 丁目 経済センタービル 4F

TEL0155-25-7347 FAX0155-28-6033

●発行 / クラブ広報

●委員長 / 大和田三朗・副委員長 / 中島 一晃

委 員 / 下山 正志・野村 一仁・伊藤 誠吾・高橋 猛文・河村 知明

●ホームページアドレス / <http://www.obihiro-rc.jp>